



アンケート結果より

アンケートの結果から分かることや今後の課題についてまとめました。

1 学校は、楽しい。

昨年度とよく似て、約90%の子どもたちが、学校が楽しいと答えています。反対に10%近くの子供たちが楽しくないと答えているのは気になることです。その原因を見極め取り除く努力を続けながら、なかまと共に活動できる喜び、できなかったことができるようになる喜び、そんな喜びをだれもが感じられる学級・学校づくりに取り組まなければいけません。

『元気に登校、笑顔で下校』子どもたちの元気と笑顔があふれる学校を目指します。

2 先生方は、わたしたちの相談によくのってくれる。

小学校は、低学年の他律期から高学年の自律期へと移行していく時期でもあります。その過程で子どもたちは、多少なりとも悩み、傷つきながら成長していきます。教職員は、そんな子どもたちのよき相談相手であり、よき理解者でなければいけません。保護者との連携を深めて、子どもたちの発するサインを見逃さず、積極的に声をかけていける教職員集団であり続けたいと思います。

3 ときめきタイムは楽しい。

読書をすることで、心がときめくような感動を味わってほしい、落ち着いた心で一日の生活を送ってほしい、豊かな感性を身に付けてほしい等の願いを込めて始めた朝の一斉読書『ときめきタイム』も、今年で11年目になります。にもかかわらず、楽しくないと答えている児童が高学年になるほど増え、20%を超えているという事実があります。この結果を真摯に受け止め、再度原点にもどって、子どもたちがこの時間を楽しみに待つことができる時間として再構築していかなければなりません。よい本を読めば、広い知識やたくさんの言葉、そして正しい気持ちややさしい気持ちが心にたまります。一日の始まりの大切な時間を有意義な時間として活用できるよう、保護者の方々との連携を深めながら、子どもたちの読書意欲を高める努力を続けます。

4 基礎基本の時間は楽しく、意欲的に取り組んでいる。「だれでもできる。伸びが分かる。10分間ひたすら取り組む。」を指導の原則に、各学年で到達目標を定めて取り組んでいますが、残念ながらすべての子どもたちが主体的に取り組んでいるとは言えない結果になっています。人との競争でなく自分自身の決めた目標に向かって努力する時間、脳の働きを活性化する時間として子どもたちが意欲的に学習できるよう、内容の見直しも含めて取組を進めます。

5 学習（授業）は分かりやすい。

毎日毎時間の学習、ときめきタイムや基礎基本の時間、毎日の宿題など、日々の地道な努力の積み重ねが結果となって表れていると考えられます。最初からできる人なんていません。『できないからやらないのではなく、できないからこそやるんだ』今後も、日々の努力を大切にできる子どもを育てていくために、分かりやすい授業の工夫、やる気の出る声かけなど、教職員も日々の地道な取組を続けていきます。

6 学習中、自分から進んで発表している。

一人一人の能力を高めるには、自分の意見を言う、人の意見を聞くということが大切です。『間違えてもまたやり直せる』『その間違いはみんなが考える材料になる』というのが、今みんなが学習している『教室』です。だから、積極的に自分の意見をみんなの前に出していきましょう。そして、自分だけでなくみんなで高まり合える教室を先生と一緒に作っていきましょう。

7 自分は、ルールやマナーを大切にしている。

自分だけでなく、自分の周りにもいる人も気持ちよく過ごすことができる。それが、ルールやマナーです。自分さえよければいいと考えて、ルールやマナーを無視する人が、学級や学校、そして社会の中にあふれてくるとどうなるでしょう。考えるだけでもゾッとしませんか。人として生まれてきたからには、人として生きていかなければなりません。自分の行動を自分で律することができる、それが人なのです。人に迷惑をかけないように考えて行動できる力、それは、人にしか与えられていない力なのです。人として生きていくためには、ルールやマナーを守る心をしっかりと育てなければいけません。そのためにも、子どもの手本となるような大人であり続けたいものですね。

8 児童会活動や学校行事は楽しい。

運動会、遠足、社会見学、まごころ集会など、教室ではできない体験活動ですから、楽しいのは当然と言えるかもしれませんが、高学年にもなると与えられただけの活動には満足できないということでしょう。自らが目的を持って、目的に向かって一生懸命がんばる。そしてやりとげたときの感動。そんな感動がいっぱい味わえる活動を求めているのではないのでしょうか。また、そうあってほしいと思います。ただ楽しいだけでなく、その場その時に応じた行動が主体的にできるよう、今後も指導支援を続けていきます。

9 創GOタイムには意欲的に取り組んでいる。

低学年には『創GOタイム』はありませんが、英語活動とコンピュータ学習を年間 10 時間程度ずつ行っています。本年度も、低学年の多くの子どもたちが、その時間を楽しみにしているのが分かります。

中学年・高学年の子どもたちも、自ら課題をもち、自ら学び、自ら解決するといった学習を、体験活動と組み合わせながら行っていますので、概ね意欲的に取り組んでいるようです。今後も、この活動をなんのために行うのか、その活動を通して何を学ぶのかという明確なめあて意識のもとに、学ぶ楽しさを感じられる学習、やりとげたという達成感や満足感が味わえる学習を、子どもたちと共に組み立てていく努力を続けます。また、情報収集、情報選択、情報処理など、情報社会に対応できる基礎的な力を高めていくことも目的の一つとして取組を進めます。

10 自分は、運動することが好きである。

世間では、ひと頃に比べると体力や運動能力の低下に歯止めがかかったようですが、運動に対して積極的・消極的といった二極化は進んでいるようです。本校でも、高学年になるほど二極化が進んできています。本来、子どもは体を動かすことが好きはず。来年から低学年の体育の時間が少し増えることを生かして、できなかったことができるようになる喜び、なかまと共に運動できる喜びをより一層感じられる時間となるようにしなければなりません。めあての持たせ方、教材教具や場の設定の工夫などを通して、運動することが楽しいと感じる子、もっと運動したいと思える子を少しでも増やす努力を続けます。家庭でも、学校の水泳クラブ、陸上クラブへの参加など、背中を押していただけると幸いです。

11 自分から進んであいさつをしている。

昨年度もそうでしたが、高学年になるほど、進んであいさつをする子の割合が低くなっています。あいさつは人と人がより良い関係を作る第一歩です。まずは朝の元気な「おはようございます」が言えるように、校門での立哨活動も含めて取組を続けます。家庭でも、元気な「おはよう」の一声をお願いします。

12 自分は、友達や周りの人を大切にしている。

低学年の頃は、まだまだ自分のことを考えるので精一杯。とりあえず自分ができることを一生懸命やろうとします。学年が進むにつれ、自分のことだけでなく周りの人も大切にしなければいけないことに気付いていきます。したがって、高学年の段階ではみんながそう思えるようになっていくのが理想なのですが…。その理想が現実となるように、日々の積み重ねを大切にします。

13 自分は、友達や先生から大切にされている。

自分は人を大切にしていると思っているのに、人は自分のことを大切にしてくれていないと感じているのが中・高学年に多いという結果が出ています。案外気付かないだけで、日々の言動の中で人を傷つけていることがあるのでは…？ 普段の言動を見直すとともに、だれもが「あなたを大切に思っているよ」というメッセージを送り続けることが大切です。人から大切にされていると感じることができれば、人を大切にできる心も育つはずですよ。

14 先生方は、自分が努力したことを認めてくれる。

多くの子どもは、自分が一生懸命努力している姿をだれかに認めてほしいと思っています。タイミングよくほめられると、次もまた頑張ろうという意欲が生まれます。またそのことが、自分は大切にされているという思いにもつながります。今後も、一人一人の頑張りを認め、励ます姿勢を大切に持ち続け、子どものより良い成長を支えていける教職員集団を目指します。

15 好きな学習は何ですか。(いくつでもよい。)

どの学年の子どもたちも、国語、社会、算数など、比較的教室の机の上で学習することが多い教科より、生活、図工、体育、家庭、創GOタイムなど、外に出て学習したり、実習をしたり、手足や体全体を動かしたりする教科を好む傾向にあるのは、昨年度の結果とよく似ています。いつの時代でも、その傾向は同じなのかもしれません。

ただ、低学年の時に好きだった学習が、高学年に進むにつれて好きでなくなってくるというのは気にかかるところです。一旦嫌いになってしまうと、『嫌い＝しなない＝分からない＝ますます嫌い』といった悪循環に陥ってしまいます。それを、『できる＝楽しい＝好き＝またやりたい』という循環に変えていかなければなりません。やらされてしている学習から、自分からする学習に変えていかなければなりません。どの教科も、子どもたちがその時間を楽しみに待てるような時間に変えていかなければなりません。子どもたちの学習意欲を高める取組を、学校と家庭とが協力しながらより一層進めていくことが今後の課題です。

※学習指導要領の改訂に伴い、来年度から、どの学年も週 1 時間ずつ学習時間が増えます。